



## 2024年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年9月1日

上場会社名 株式会社伊藤園 上場取引所 東  
コード番号 2593 URL <https://www.itoen.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 本庄 大介  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 平田 篤 (TEL) 03-5371-7197  
四半期報告書提出予定日 2023年9月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年4月期第1四半期の連結業績（2023年5月1日～2023年7月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年4月期第1四半期	121,154	7.0	9,992	66.5	10,536	57.2	6,828	61.9
2023年4月期第1四半期	113,225	7.0	6,002	△4.9	6,701	3.7	4,217	△5.5

(注1) 包括利益 2024年4月期第1四半期 7,846百万円 (57.6%) 2023年4月期第1四半期 4,979百万円 (9.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年4月期第1四半期	56.43	56.31
2023年4月期第1四半期	34.86	34.78

(注2) 上記の1株当たり情報は普通株式に係る情報であり、第1種優先株式に係る1株当たり情報については、以下（参考）をご覧ください。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年4月期第1四半期	347,370	177,207	50.6
2023年4月期	338,774	172,128	50.4

(参考) 自己資本 2024年4月期第1四半期 175,752百万円 2023年4月期 170,589百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年4月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2024年4月期	—	—	—	—	—
2024年4月期（予想）	—	21.00	—	21.00	42.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注2) 上記の配当の状況は普通株式に係る情報であり、第1種優先株式に係る配当の状況については、以下（参考）をご覧ください。

### 3. 2024年4月期の連結業績予想（2023年5月1日～2024年4月30日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	232,000	2.1	12,500	10.3	12,600	0.4	8,050	1.6	64.91
通期	440,000	1.9	21,000	7.2	21,000	3.2	13,500	4.7	108.33

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

(注2) 上記の連結業績予想における1株当たり情報は普通株式に係る情報であり、第1種優先株式に係る1株当たり情報については、以下（参考）をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：有

④ 修正再表示：無

(注) 詳細については、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計上の見積りの変更)」をご参照ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年4月期1Q	89,212,380株	2023年4月期	89,212,380株
2024年4月期1Q	971,051株	2023年4月期	976,571株
2024年4月期1Q	88,236,894株	2023年4月期1Q	88,208,624株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 上記の発行済株式数は普通株式に係る情報であり、第1種優先株式に係る発行済株式数については、以下(参考)をご覧ください。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(参考)

(1) 第1種優先株式に係る1株当たり情報

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年4月期第1四半期	56.43	56.31
2023年4月期第1四半期	34.86	34.78

(2) 第1種優先株式に係る配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年4月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2024年4月期	—				
2024年4月期(予想)		27.00	—	27.00	54.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

(3) 第1種優先株式に係る連結業績予想の1株当たり情報

	1株当たり当期純利益
	円 銭
第2四半期(累計)	70.91
通期	120.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

(4) 第1種優先株式に係る発行済株式数

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年4月期1Q 34,246,962株 2023年4月期 34,246,962株

② 期末自己株式数

2024年4月期1Q 1,490,025株 2023年4月期 1,489,535株

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年4月期1Q 32,757,192株 2023年4月期1Q 32,759,377株

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における日本経済は、雇用・所得環境が改善し緩やかな回復が続いているものの、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっており、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意が必要な状況となりました。

このような状況の中、当社グループは経営理念であります「お客様第一主義」のもと、当社グループを取り巻く全てのお客様に対し「今でもなお、お客様は何を不満に思っているか」を常に考え、一丸となって積極的な事業活動を行ってまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は、以下のとおりとなりました。

売上高	1,211億54百万円（前年同期比7.0%増）
営業利益	99億92百万円（前年同期比66.5%増）
経常利益	105億36百万円（前年同期比57.2%増）
親会社株主に帰属する四半期純利益	68億28百万円（前年同期比61.9%増）

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

#### <リーフ・ドリンク関連事業>

当社では、1989年発売以来の累計販売本数が400億本を突破するなど、多くの方にご支持をいただいている「お〜いお茶」ブランドのさらなる価値向上を図っています。

茶農家の方々とともに高品質な国産緑茶原料を生産する取組みを通じて、緑茶製品の安定供給や持続的な農業経営を実現する「茶産地育成事業」によって生産する茶葉を100%使用した「お〜いお茶 緑茶」ペットボトル飲料を、本年5月下旬より順次展開を開始しました。

同ブランドから、爽やかな香りとまろやかな甘みが特長の「お〜いお茶 ○やか（まろやか）」を5月に新発売しました。いつでもどこでも飲用できるペットボトル飲料と、マイボトルでの飲用に最適なティーバッグの2製品を展開しています。なお当社は、2019年より大学生・大学院生とともに“若者の心をお茶色に染める”をテーマにした「若者プロジェクト（共同研究）」を実施しており、本製品はこの取組みの一環で味わいづくりから一緒に開発した新しい緑茶製品です。

スペシャルティコーヒーショップ「タリーズコーヒー」で味わうようなおいしさでご好評をいただいている「TULLY' S COFFEE」ブランドから、新感覚のブラックコーヒー炭酸「TULLY' S COFFEE BLACK&SODA GASSATA」を5月に新発売しました。「GASSATA」はイタリア語で炭酸を指します。エスプレッソコーヒーを炭酸で割った飲み方は、南イタリア・カラブリア州で半世紀以上も前から親しまれている南国ならではの楽しみ方のひとつです。本製品は、炭酸がコーヒーのコクを引き立て、すっきりと爽快な味わいが特長の新感覚コーヒー入り炭酸飲料です。原材料にはアラビカ種コーヒー豆を100%使用し、おいしさが凝縮したエスプレッソコーヒーに炭酸を加えました。パッケージには、黒を基調にネオンが輝くデザインを採用し、イタリアのバルにしているような世界観を表現しました。ブラックコーヒーの新たな楽しみ方と「黒泡」の魅力を発信することで、ブラックコーヒーの新たな価値をお届けします。

全国農業協同組合連合会（JA全農）が推進する国内農業支援の取組み「ニッポンエールプロジェクト」製品として、JA全農と共同で開発した「ニッポンエール 宮崎県産 日向夏」を5月にリニューアル発売しました。当社は今後もニッポンエールプロジェクト協議会の参画企業として、JA全農との共同開発製品の販売を通じて、日本の農業と消費者を結ぶ架け橋となり、国産農畜産物の認知と消費拡大に貢献してまいります。

本年6月、1988年に「むぎ茶飲料」を発売して35周年を迎えた本年4月に累計販売本数が130億本突破（500mlペットボトル換算）するとともに、皆様に長年ご愛飲いただいているブランド「健康ミネラルむぎ茶」が、「最も販売されているRTD麦茶ブランド（最新年間販売量）」実績世界No.1としてギネス世界記録<sup>TM</sup>に認定されました。麦茶飲料市場が年々拡大を続ける中、「健康ミネラルむぎ茶」は麦茶飲料市場を牽引する存在として、赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年齢層の方に年間を通してご支持をいただいています。今後も「お客様の健康づくりをサポートする」をブランドビジョンに、健康的に体を動かした時に失われる水分とミネラルを補給できる飲料ブランドとして、皆様にご支持いただけるよう目指してまいります。

この結果、リーフ・ドリンク関連事業の売上高は1,097億60百万円（前年同期比6.3%増）となり、営業利益は91億44百万円（前年同期比71.0%増）となりました。

#### <飲食関連事業>

タリーズコーヒージャパン(株)におきましては、同社の経営理念の一つである「子ども達や青少年の成長を促すために、夢や目標のお手伝いをする。」を実現する取組みとして、高校生パティシエNo.1を決めるスイーツ甲子

園（主催：産経新聞社）とのコラボレーション企画を展開し、この大会で優勝、タリーズ賞のダブル受賞に輝いた高校生が発案したスイーツである、「フロマージュ バナーヌ」「ムース オランジュ」などが好調に推移しました。また、気温の上昇と共に、5月より順次5種類のフロズンドリンクの発売や、7月には暑さを乗り切る炭酸ドリンクとして、季節限定ビバレッジ「出雲生姜のブラッドオレンジジンジャーエール」を展開し、ご好評をいただきました。新規出店に関しても、新業態である「TULLY'S COFFEE -SELECT-」を展開し、新たなタリーズブランドの形を発信しました。2023年7月末の総店舗数は773店舗となっております。

この結果、飲食関連事業の売上高は96億26百万円（前年同期比14.4%増）となり、営業利益は9億53百万円（前年同期比23.8%増）となりました。

<その他>

売上高は17億67百万円（前年同期比16.1%増）となり、営業利益は56百万円（前年同期比20.9%増）となりました。

**(2) 財政状態に関する説明**

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は3,473億70百万円となり、前連結会計年度末に比べ85億95百万円増加いたしました。これは主に「現金及び預金」が49億26百万円減少、「売掛金」が105億46百万円増加、「原材料及び貯蔵品」が15億3百万円増加したことによるものであります。

負債は1,701億62百万円となり、前連結会計年度末に比べ35億16百万円増加いたしました。これは主に「買掛金」が47億88百万円増加、「未払費用」が19億9百万円増加、「賞与引当金」が21億66百万円減少、退職金制度の変更等に伴い「退職給付に係る負債」が26億31百万円減少したことによるものであります。

純資産は1,772億7百万円となり、前連結会計年度末に比べ50億79百万円増加いたしました。これは主に「親会社株主に帰属する四半期純利益」により「利益剰余金」が68億28百万円増加、「剰余金の配当」により「利益剰余金」が25億83百万円減少したことによるものであります。

**(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明**

2024年4月期の業績予想につきましては、2023年6月1日に発表した業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	104,181	99,254
受取手形	75	105
売掛金	60,120	70,666
商品及び製品	44,767	45,570
原材料及び貯蔵品	12,880	14,383
その他	12,650	13,095
貸倒引当金	△281	△303
流動資産合計	234,393	242,773
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	21,093	21,287
土地	22,979	23,011
リース資産(純額)	6,075	5,688
その他(純額)	21,857	22,018
有形固定資産合計	72,005	72,006
無形固定資産		
のれん	2,528	2,263
その他	5,742	5,897
無形固定資産合計	8,270	8,160
投資その他の資産		
その他	24,215	24,549
貸倒引当金	△110	△119
投資その他の資産合計	24,105	24,429
固定資産合計	104,381	104,596
資産合計	338,774	347,370
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	29,958	34,746
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
短期借入金	2,743	2,435
リース債務	2,135	1,995
未払費用	29,519	31,429
未払法人税等	4,367	3,648
賞与引当金	4,296	2,130
その他	6,206	7,332
流動負債合計	89,226	93,717
固定負債		
長期借入金	58,210	58,741
リース債務	3,662	3,312
退職給付に係る負債	10,810	8,178
その他	4,736	6,212
固定負債合計	77,419	76,445
負債合計	166,646	170,162

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,912	19,912
資本剰余金	18,558	18,554
利益剰余金	138,827	143,072
自己株式	△6,911	△6,891
株主資本合計	170,386	174,647
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,693	1,823
土地再評価差額金	△6,053	△6,053
為替換算調整勘定	4,132	5,022
退職給付に係る調整累計額	429	312
その他の包括利益累計額合計	202	1,105
新株予約権	134	142
非支配株主持分	1,404	1,312
純資産合計	172,128	177,207
負債純資産合計	338,774	347,370



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年7月31日)
売上高	113,225	121,154
売上原価	70,239	73,425
売上総利益	42,986	47,729
販売費及び一般管理費	36,984	37,737
営業利益	6,002	9,992
営業外収益		
受取利息	36	86
受取配当金	54	49
持分法による投資利益	46	46
為替差益	358	379
プリペイドカード失効益	42	54
助成金収入	243	0
その他	98	96
営業外収益合計	879	712
営業外費用		
支払利息	130	117
その他	50	51
営業外費用合計	180	168
経常利益	6,701	10,536
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産廃棄損	70	35
減損損失	8	11
退職給付制度改定損	—	80
特別損失合計	79	128
税金等調整前四半期純利益	6,622	10,409
法人税等	2,323	3,494
四半期純利益	4,299	6,914
非支配株主に帰属する四半期純利益	81	86
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,217	6,828

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年7月31日)
四半期純利益	4,299	6,914
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	112	165
為替換算調整勘定	563	905
退職給付に係る調整額	5	△117
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	△22
その他の包括利益合計	680	932
四半期包括利益	4,979	7,846
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,832	7,730
非支配株主に係る四半期包括利益	146	115

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計上の見積りの変更)

当社グループが保有するリース資産並びに有形固定資産のその他に含まれている工具、器具及び備品のうち、自動販売機については、従来、耐用年数を8年として減価償却を行ってきましたが、当第1四半期連結会計期間において、耐用年数を10年に見直し、将来にわたり変更しております。

当社グループでは、自動販売機の性能向上及び定期的な保守の実施等の結果、当第1四半期連結会計期間において、従来の耐用年数と経済的使用可能予測期間との乖離が顕在化いたしました。これにより、10年にわたって費用配分することが当社グループの実態をより適切に反映できると判断しております。

この変更により、従来と比べて、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ398百万円増加しております。

なお、セグメント情報に与える影響については、(セグメント情報)に記載しております。

## (セグメント情報)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自2022年5月1日至2022年7月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	合計
	リーフ・ドリンク 関連事業	飲食関連事業	その他	合計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	103,288	8,414	1,522	113,225	—	113,225
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	97	0	774	873	△873	—
計	103,386	8,415	2,297	114,098	△873	113,225
セグメント利益	5,346	770	47	6,163	△161	6,002

(注) 1 セグメント利益の調整額は、のれんの償却額△247百万円、セグメント間取引85百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自2023年5月1日至2023年7月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	合計
	リーフ・ドリンク 関連事業	飲食関連事業	その他	合計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	109,760	9,626	1,767	121,154	—	121,154
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	153	0	660	814	△814	—
計	109,913	9,626	2,428	121,969	△814	121,154
セグメント利益	9,144	953	56	10,154	△162	9,992

(注) 1 セグメント利益の調整額は、のれんの償却額△247百万円、セグメント間取引84百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計上の見積りの変更)に記載のとおり、当社グループが保有するリース資産並びに有形固定資産のその他に含まれている工具、器具及び備品のうち、自動販売機については、耐用年数を8年から10年に見直し、将来にわたり変更しております。

この変更に伴い、従来の方法と比較し、リーフ・ドリンク関連事業の当第1四半期連結累計期間のセグメント利益は、398百万円増加しております。